

現代の高齢者と私の描く未来

中 二一

私には、九十三歳の曾祖母がいます。一緒に住んではいませんが、時々スーパーの買い物に付き添います。なぜ付き添うかというと、好物の食べ物など、一度買い物かごに入れた商品を入れたことを忘れてしまい、再び入れてしまうことがあるからです。

家族からは、

「なるべく自分でできることは、自分でさせてね。」
と言われていたので、私は隣について歩いているだけです。ゆっくりとカートを押しながら、欲しいものをかごに入れます。私は、このゆっくりと流れている時間が大好きです。そして、

「欲しいものはないの？好きなものを持っておいで。」
と、ゆっくりとした口調で言われます。ひと通り店内をまわり、レジへ並びます。そして曾祖母の順番がまわってきました。

お店の人のスキヤンが終わり、お会計の合計金額が言われます。曾祖母は、耳も少し遠いので、

私もう一度ゆっくりと合計金額を伝えました。曾祖母は、ゆっくりと小銭を数え、トレイの上のせていきます。すると、後ろからため息のようなものが聞こえてきました。私は振り向きませんでした。私よりも年上の若者がイライラした様子でいました。私は、とても嫌な気持ちになりました。曾祖母は気付いていないかもしれませんが、もし気付いていたら、私以上に嫌な気持ちになっていたと思います。

それからしばらくして、曾祖母のお財布の中身がパンパンになっていてのを見かけました。私が、「何でこんなに小銭がいっぱいなの？」

と聞きました。すると、
「いつも買い物に行くと、レジでお札ばかり出しているから、おつりの小銭が増えちゃってね。」
と言いました。

私はそれを聞いたとき、ちょっと悲しくなり、以前のことを思い出しました。曾祖母は、後ろに並んでいる人のことが気になってしまって、小銭での支払いができなくなってしまっていたようでした。

また別の日に母とスーパーへ買い物に行つたと

きのことです。商品をひと通り入れ終わり、レジに並んでいました。すると、前に並んでいたのはお年寄りの方でした。私も母も、曾祖母の思いを知っているのです、いつも通りに並んで待っていました。すると、

「すみませんね……時間かかってしまつて。」

と言ってきました。すると母は、

「大丈夫ですからお気になさらずゆつくりどうぞ。」と返していました。

私は、曾祖母だけでなく、他のお年寄りの方々も、そんなに気になさっているのかということを知りました。

だれにでも自由に買い物をする権利があり、買い物を楽しむ権利があるのに、そんなことを気にして、楽しいはずの時間に謝らないといけないというこの世の中を、私は疑問に思いました。

若い人たちは、いずれ年をとり同じ立場になります。私も同じように年をとり、同じ立場になります。そのとき同じように理解されたいと思うのです。だからこそ今、自分たちから始めることが大切だと思います。ほんの少しだけ我慢することがで心に余裕が生まれ、お年寄りの気持ちを考え、

同じ目線に立てる、思いやりのある風潮を広めていくことが大切だと思いました。

お互いが心にゆとりをもち、笑顔で接することができれば買い物も楽しくなるし、レジで並んでいる時間も苦にならないと思います。お年寄りも、買い物を楽しむ権利があるのですから。